



新しい力で 大島紬をさらに 盛り上げたい!!

越間異大島紬工房



越間異大島紬工房
工芸染織

越間 玲介氏

昭和58年8月25日生まれ。鹿児島市出身。美術系の大学で彫刻を学び、表現するおもしろさに目覚めたという。「いつかは奄美大島の情景を描けるような作品を作りたい」。

奄

美の海を思わせる藍の色、南国の日差しに輝く福木の黄色…。鹿児島の草木で染めた絹のストールが風にふわりと揺れる。これらの作品を制作しているのが、『越間異大島紬工房』の越間玲介さんだ。

幼いころから、伝統工芸士の父・巽さん、工芸染織家の母・恵智子さんの背中を見て育った。「家族で草木染の材料を取りに行ったり、染めの作業をする父の横で、真似をして一緒にタオルを絞ったり…。今も子ども時代とあまり変わらないですね」と笑う。

数多い工程の中で、玲介さんがメインにしているのが『染め』の作業。「様々な草木が自生する



鹿児島は天然染料が豊富にあります。初めて日の丸を染めるときに使ったと言われる日本茜の美しい緋色、屋久杉の光沢のある利休茶色、いろいろな色との組み合わせが楽しい楊梅(やまもも)…。種類や乾燥、染める時間によって色の出方が異なり、同じものは一つとしてできません」とその魅力を語る。

両親が生まれ育ち、自分のルーツでもある奄美大島と、大島紬をこよなく愛する玲介さん。「いろいろなことを吸収し刺激を受け、大島紬をさらに盛り上げていきたい。これからの大島紬はもっとおもしろくなります!!」。熱い思いは次世代に強く受け継がれている。

伝統を守り、 変わらぬ味を伝える。

徳重製菓とらや



(有)徳重製菓とらや
B棟焼菓子製造課
マネージャー

奥 陽一氏

昭和53年12月30日生まれ。曾於市財部町出身。昨年、天降川沿いにオープンした『創作和洋菓子とカフェ 霧や櫻や』の目玉商品、しっとり食感の「丸十生サブレ」の開発も手掛ける。

和

菓子作りの魅力は奥深さと」と語るのは、霧島市の「徳重製菓とらや」の奥陽一さん。「かごしまの新作商品コンクール2015」で県知事賞を受賞した、「創作生かるかん」を手掛ける期待の和菓子職人だ。

従来のかるかん饅頭概念を超えた、食べやすい半月型の『創作生かるかん』は、かるかんの特徴を生かしつつ、霧島らしさを盛り込んだ工夫が随所に光る。生地には地元産の自然薯と名水を使用。生地と餡のバランスが絶妙な商品は、優しい色づかいと上品な味わいが人気だ。

「一番難しかったのは、生地を半月型に折り畳む際、折れないようにする



こと。しっとりした食感を保つことと、生々のような味わいも実現しました」。

『創作生かるかん』は、『霧かん』『桜かん』『橘かん』の3種類。特に、鮮やかな橙色の生地と桜島小みかんの餡が絶妙な「橘かん」は、2015年度「全国推奨観光土産品審査会」菓子部門で厚生労働大臣賞を受賞。「土産品にふさわしく、郷土色、デザインも素晴らしい」と高い評価を受けた。

「当社は創業132年の老舗店。先輩から受け継いできた伝統と味を守りながら、皆さんに親しまれる商品を作り続けたい」と話す奥さん。和菓子職人への道を極める日々はこれからも続く。



平成28年度通常総会

6月20日、平成28年度通常総会において、事業実績及び決算承認と事業計画及び予算を報告し、急速に変革する時代に会員一丸となって対応することが確認されて新年度がスタートしました。

特に、今年度は、平成30年に明治維新150周年迎えるにあたり特産品の検証と今後の方向性を探ります。また、増加するインバウンドを新市場とした対策事業、現代のライフスタイルに合わせたモノづくりと市場拡大、急激な国際化・高齢化に対応した商品開発と安定的な輸出拡大、的確な情報発信並びに継続的な指導・助言などに取り組むこととしています。

ぜひ、新時代に向けて皆様と一緒に挑戦してまいりたいと考えていますので、ご協力・ご提言をお願いします。



「特産品と明治維新 150周年事業」 特別記念講演のご案内

今回は、講師に東京大学名誉教授で冒険家であり、本年から鹿児島県特産品協会だよりの「鹿児島羅針盤」にご寄稿いただく月尾嘉男先生を迎えて、「日本が世界地図から消滅しないための戦略」についてセミナーを開催いたします。是非、奮ってご参加ください。

- 日時：平成28年10月7日(金)
13:20~14:50
- 場所：鹿児島サンロイヤルホテル2階 開間の間
- 講師：月尾 嘉男 氏
(東京大学名誉教授)
- 定員：150名

※当日は、隣接会場で「2016かごしまの新特産品コンクール」が開催されています。

<お問合せ>企画開発課

検索数から見た 伝統的工芸品の現状と、 今後の展開

伝統工芸品の低迷が言われて久しい中、インターネットを検索したところ、経済産業省が定める伝統的工芸品222点の月間推定検索数を調べたものがありました。腑に落ちない点があったため、グーグルキーワードプランナーで改めて検索した結果を、以下に要約します。

(数字は、Yahoo、Googleの検索数合計、下1桁四捨五入)

●織物(36点)

大島紬が堂々首位で16,200件。(本場大島紬では、960件)以下、西陣織10,800件、結城紬、久留米絨が続く。

●染色品(11点)

加賀友禅が8,800件で首位。有松絞り、京友禅が続く。

●陶磁器(31点)

全国的に産地が多く、日用品が多いせいか、検索数値が他の業種に比べ、際立って高い。首位は、有田焼で、54,200件。以下、波佐見焼、九谷焼、益子焼、信楽焼と続き、薩摩焼は中程で4,800件。

●漆器(23点)

輪島塗が13,200件。鎌倉彫、津軽塗、会津塗、山中漆器と続く。

●木工品・竹工品(32点)

曲げわっぱが首位で19,800件。(大館曲げわっぱでは、1,800件)。ついで寄木細工10,800件。(箱根寄木細工では、5,800件)。地名無しの方が検索数が多いことが分かります。

●金工品(15点)

南部鉄器が66,150件で、今回の調査では全体でも最高値でした。鉄瓶の人気の高さが伺い知れます。社名ながら、能作(高岡銅器)が13,200件で2位。

●仏壇・仏具(16点)

日常の購買の頻度が低いせいか、検索数は極めて少なく、川辺仏壇は220件で、上位にランクされています。

●文具(9点)

熊野筆が29,600件と唯一高く、化粧筆の認知度の高さが伺い知れます。

●その他工芸品(19点)

江戸切子29,600件と、甲州印伝10,800件が高く、国指定とは別に、本県指定の伝統的工芸品である薩摩切子も10,800件と健闘しています。

低迷する伝統工芸品の中であって、検索数値の高いものが、販売高にも連動している傾向が感じられます。

国内での需要の高まりが難しい中、鹿児島県も伝統的工芸品の国内外への販路開拓に向けた事業に取り組んでおり、業界の奮起に、大いに期待するところです。